第２回　島崎･浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会 会　議　録		作成	令和７年１月２８日（火） 宮津市企画財政部財政課
開催日時	令和７年１月２８日（火）16:00～18:00	出席者	別紙「出席者名簿」のとおり
開催場所	宮津市福祉･教育総合プラザ　第４コミュニティルーム 【公開】		

■第２回島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会の概要

第２回島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会は次第のとおり進行され、その概要は下記のとおりである。

1.　開会

2.　委員長あいさつ

○　昨年７月25日に開催した第１回の島崎･浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会では、大きく三つのエリアに分けた形での活性化の方向性、及び道の駅と公園が一体となった交流拡大ゾーンにおける道の駅の機能拡張を検討していくことを確認したところ。

○　昨年11月、道の駅の機能拡充に向けた専門的な調査を市からコンサルタントへ委託し、出口アンケート調査及び関連事業者へのヒアリングを実施されたところ。

○　これらを踏まえ、本日の第２回島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会においては、アンケート調査結果等の報告を受けた上で皆様と意見交換をさせていただきたい。

3.　委員等紹介

事務局から、資料１により紹介。

※遠藤委員長、鬼頭アドバイザーはオンライン参加。

○　事務局として、総務部、企画財政部、産業経済部、建設部、教育委員会事務局からそれぞれ担当の職員が出席。また11月から実施している「道の駅「海の京都宮津」拡張整備によるエリア活性化のための基盤整備検討調査業務」の受託者である、パシフィックコンサルタンツ・京都総研コンサルティング共同企業体が出席。

※ここから、議事進行を事務局から委員長へ交代した。

4.　議事

■報告

（１）第１回検討委員会の振り返りなど

事務局から、資料２により説明。

○　本委員会では、日本三景天橋立など景観に優れアクセスも良い島崎浜町ウォーターフロントエリアの民間資金を活用した活性化に向け、令和２年度から５年度にかけて民間意向に基づく事業化の可能性調査を行ってきた。その中で「道の駅の拡張を優先して着手し、エリア全体の賑

わいを創出する起爆剤とすべし」などエリア活性化の方向性を市として把握してきたところ。

○　今後、市が市民意向も把握した上でエリア活性化方針を固め、エリアにおける事業化判断などを行うために、この島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会を設置し、令和６年7月25日に第１回検討委員会を開催した。

○　第１回検討委員会では、エリアのゾーン分けについてはエリア全体を一度に開発していくのでなく、まずエリアを海が見える立地を活かす「民間誘致」ゾーン(A)、市民の憩いの場「文化・スポーツ振興」ゾーン(B、C1)、道の駅と公園が一体となった「交流拡大」ゾーン（C2、D）の３つに区分し、交流拡大ゾーンについて増加傾向の道の駅ユーザーに応えるべく、民間を活用した道の駅の機能拡充を優先的に検討していくことを確認いただいたところ。

○　第１回検討委員会の意見交換で頂いた意見を基に主な意見をまとめると、立地場所のポテンシャルとして「立地条件が良い／海が魅力／営業ポテンシャルがある／宿泊ニーズがある」、現在の道の駅の課題として「規模が小さい／人が少し集まりにくい／こちらに来られても素通りしている人がいるのではないか／観光客が車を停めにくい状況」が挙げられた。また道の駅の機能拡充に向けた将来像やアイディアとして、「観光客が楽しめる施設／地魚を買う／食べる場所になると良い／夜の営業は必須／平面駐車場部分の有効活用」などの意見を頂いた。

○　現在、宮津市では宮津阪急ビルへの市役所の集約化の検討と、島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化の検討の２つが進んでいるところ。
市役所集約化については、市役所庁舎のミップル内への移転・集約ということに基づき具体的な内容が検討、協議されているところ。令和６年３月21日に庁舎基本構想に関する答申が市長に提出された。その答申の中で庁舎を集約化していくことと共に、島崎・浜町エリアの活性化についても言及がある。具体的には、今後の宮津市発展の重要拠点としていかなければならないため、市庁舎の移転を契機に新庁舎を含むこのエリアを一体的かつ総合的な見地から宮津市の新たな賑わいを創出するための再開発に向けた議論を深められたいという意見を頂いている。
以上の流れを踏まえ、令和６年７月に第１回島崎・浜町ウォーターフロントエリア活性化検討委員会を開催した。

○　庁舎基本構想等検討委員会は令和６年12月12日に第４回が開催され、ミップルへの集約化を前提にした基本計画の検討が開始されているという状況である。庁舎の移転に関する意見交換に加えて、島崎・浜町エリアについて「ビル建物内への市役所移転と捉えるのではなく、周辺一帯のにぎわいなども含めしっかりと考えていくべし」等の意見を頂いている。

○　第１回検討委員会以降、９月議会にて調査予算を可決いただき、「道の駅「海の京都宮津」拡張整備によるエリア活性化のための基盤整備検討調査業務」をパシフィックコンサルタンツ・京都総研コンサルティング共同企業体（以下「JV」という。）へ委託し、道の駅の機能拡充に向けた専門的な調査を進めている。今回は道の駅における出口アンケート調査、関連事業者のヒアリング調査の結果について報告させていただく。

○　このような経緯の中で、今回の委員会を迎えているところである。今後のスケジュールとして、本日の意見交換後、JVによる調査を継続して実施。施設テーマ等の検討結果を次回、第３回検討委員会にて提示し、委員の皆様に意見を頂く予定である。

（委員長）今の事務局からの説明についてご質問はあるか。
―――質問なし―――
（委員長）質問はない模様であるため、次の議題に移る。

（２）道の駅の機能拡充の検討にあたっての調査結果
＜出口アンケート調査結果の概要報告＞
事務局から、資料３により説明。

○　出口アンケート調査は、道の駅来訪者を対象に現状の機能や満足度、その他要望について生の声を引き出すため対面にて実施。平日 70 件、休日 127 件の回答を集計。
回答者の属性として性別や年齢、居住地、その他来訪の目的、滞在期間、全体予算を聞き、施設別の満足度や改善点や要望、今後充実してほしい機能について聞き取りを行った。
■各項目の要旨
【属性】平日、宮津市内からの来訪者 13 名、宮津市外からの来訪者 56 名。休日、宮津市内からの来訪者 14 名、宮津市外からの来訪者 113 名。平日・休日ともに市外からの来訪者が 8 割以上を占めている。
【性別】女性の方が多いが、市外からの来訪者については平日休日ともに男性も比較的多い。
【年齢層】50 代以上が多いが、市外からの来訪者については 30 代以下も一定数確認。
【来訪手段】自動車が大半を占めている。
【来訪目的】地場産品やお土産の購入が大半。飲食という回答は多くない。
【来訪予定スポット】天橋立が多いが、市街地散策も一定数確認できる。平日、休日の市内からの来訪者は、道の駅と異なる場所（ミップル、にしがき、福知山方面など）で買い物しているとのコメントもある。
【宿泊の有無】有りが 4 割以上。平日、市外からの来訪者は宮津市内に宿泊されている方が非常に多い。
【来訪経験】市外からの来訪者では初来訪が 5 割以上である。

○　施設別の満足度について、やや不満、不満と回答した方は全体的に見て多くない。一方で地元の野菜や海産物を増やしてほしい、店舗が狭い、店舗数が少ないなどの意見が確認されている。
市外からの来訪者に限って見ると、平日・休日ともに直売所、案内所、駐車場について、普通との回答が一定数あり、この部分を満足の方に引き上げられる余地があると推察している。

○　改善点や施設に求められることとして、飲食店の増設、浜焼きなど軽飲食メニューの充実、直売所の規模拡大、直売所の地元野菜や海産物、加工食品の充実などが挙げられている。また駐車場の台数が少ない、道の駅と気づかずに通り過ぎたといった意見もあり、改善の可能性があると推察している。

＜関連事業者ヒアリング調査結果の概要報告＞

事務局から、資料４により説明。

○　事業者ヒアリングは、道の駅拡張整備のアイディアの引き出し、地元の機運醸成を図りながら、施設テーマを設定していくため、現在の道の駅の関連事業者、道の駅の周辺事業者、その他道の駅の管理運営実績を有する事業者に対し実施。

○　主な質問事項は、「ウォーターフロントエリアの活かすべき強み、地元住民や観光客にとって必要と考えられる機能の施設、周辺施設との連携、産直物販施設や飲食施設について」である。

○　ヒアリングの主な結果は以下のとおり。

【活かすべき強み】

- どの事業者も共通して、海に面した立地、海産物を強みとして挙げている。
- 景観のみでなく寺社仏閣で、山や川に囲まれた自然も強みという意見も確認されている。
- 全国で道の駅運営実績のある事業者からは、宮津市はすでに観光地として多くの来訪者があり、非常にポテンシャルの高いエリアという意見も頂いている。

【現在の道の駅に対する改善点】

- もっと海を活かした施設や商品メニューの充実。
- 座席数、売り場面積が小さい。
- 飲食店の店舗数が少ない、営業時間について朝、夜の拡大など。
- 道の駅として認知されていない、目立っていない。
- 宿泊事業者からは、宿泊利用者に対し、道の駅がどこにあるのか聞かれること、朝と夜に営業していないので飲食の需要に応えられていないことから道の駅として案内しにくいという意見も頂いている。
- 周辺の関連事業者からは、各施設がバラバラに立っておりエリア全体の回遊性が悪いという意見も頂いている。

【今後の検討の糸口】

- 直売所等における海産物や地元野菜、宮津市の特産である練り物などの加工品の品数の拡充。
- 営業時間の拡大や夜間営業の飲食店の充実。
- ドッグランやペット連れ向けの施設。
- 子供の遊び場の充実。

【エリア活性化に関する意見】

- 市内の市街地や周辺の寺社仏閣との連携。
- 桟橋設置
- ヨットハーバー、クルーズ等の海上交通機能の充実。

（３）報告内容に対する質疑・意見

「（２）道の駅の機能拡充の検討にあたっての調査結果」資料３について、質疑及び意見を伺った。

（委員　）市外からの来訪者は日帰りが困難な場所からお越しか、隣町から来られているのか、割合のイメージを教えていただきたい。

（事務局）京都市、神戸市、大阪市と京阪神地区が多い。その他個別の数は少ないが、愛知や横浜等都市部から来られていることが確認されている。

（委員　）資料３の来訪経験について「市街地への散策」があったが、その回答割合がわかれば教えていただきたい。

（事務局）内訳までは得てないが、ご回答によると、三上家住宅の庭園や成相寺への訪問等が確認されている。

（委員　）道の駅への単なる立ち寄り以外に道の駅に車を置いて市街地を散策するというニーズがあるということは、市街地に近い道の駅ということで、他の道の駅とは少し違うところだと感じた。

（委員　）宿泊の有無について「市外に宿泊」とあるが市外のどのあたりか、おおよその場所が分かれば教えていただきたい。

（事務局）具体的な宿泊先は得ていないが、来訪予定スポットとして多かったのが、伊根町、舞鶴。特に、ぶりしゃぶと回答されている方が一定おられたので、伊根に行かれている方が多いと推測される。

（委員長）女性の回答も多い。もちろん住んでいる方と外部の方とではニーズが違うと思われるが、特に交流人口関係人口という深掘りの中で女性をターゲットにした話はよくある。女性の切り口で魅力的な来訪目的について何か特に質問があれば教えていただきたい。

（事務局）女性に限って宿泊目的、来訪予定スポットの内容について抽出したところ、来訪予定スポットとしては成相寺、舞鶴の方面が一定おられる。また、キャンプ、レジャーとの回答も一部あり、市街地散策に加えキャンプ、レジャーで立ち寄って、また別のところに行かれている可能性もあると推測される。

（委員　）宿泊について、市外からの来訪者は平日・休日ともほとんど市内のホテルに宿泊というのはないようだが、実態としてはどれぐらいの方が宮津市内のホテルに宿泊されたのかわかれば教えていただきたい。

（事務局）宮津市内のホテル・旅館の宿泊者は全体のうち約 22.4%となっている。道の駅の来訪者で宿泊有りと回答された方は 4 割以上おり、そのうちの約半数は宮津市内、半数は宮津市外に宿泊している。

「（２）道の駅の機能拡充の検討にあたっての調査結果」資料４について、質疑及び意見を伺った。

（委員　）質問項目の横の概要欄に多くの項目が見られるものがある。例えば上から３行目の「本エリアにおいて地元住民にとって必要と考えられる機能と施設」では４項目ある。どの項目が圧倒的に多いかなど教えていただきたい。

（事務局）対面で実施しており、基本全項目ご回答いただいているが、その中でも意見の多いところ、少ないところはあった。先ほど課題や改善点でご説明した、商品メニューの充実、売り場の面積、営業時間の拡大など、特に飲食と産直について多くご意見を頂戴した。

（委員　）道の駅の中の案内所について資料の中に記載がないのはなぜか。出口調査でも、若干不満という意見も見られた中で、事業者ヒアリング調査では案内所についてご意見等はなかったか。また近年、インバウンドのお客様も急増しているが、インバウンドへの対応について意見等はなかったか。

（事務局）資料４の「道の駅と本エリア周辺施設との連携やアイデア」の④に記載のとおり、観光案内所での観光プランの提供、サイクリングロード整備のレンタサイクルの利用向上など、案内のみでなくプラスしたものも周辺事業者からの意見として頂いている。
インバウンドについて、11 月から 12 月にかけて平日休日に出口アンケート調査を行い、約 200 名聞き取りした中ではインバウンドの方は結果としてゼロだった。関連事業者ヒアリングでは、ホテル事業者の方からはインバウンド向けの機能の充実という意見を頂いている。

―――追加の質問・意見なし―――

（委員長）それでは次の議題に移る。
意見交換会に入る前に事務局から意見交換の主旨についてご説明いただきたい。

■意見交換

（１）道の駅の機能拡充の検討にあたっての意見交換

事務局から、資料５について説明。

○　資料５は意見交換用の資料として事務局で作成したものである。
表の見方であるが、縦軸は左から順に第１回検討委員会で委員の皆様から頂いたご意見、出口アンケート調査結果、関連事業者ヒアリング調査結果の三つを分けて記載している。横軸は上から順に「現在の道の駅に対する評価、現在の道の駅の改善につながる意見等、エリア関連」に分けている。考察の意味合いとして「強みの再確認」、「ギャップの確認」、「検討の糸口」に色分けしている。

○　事務局としては「道の駅海の京都宮津」という名称や、施設目的自体への否定的な意見はなく、もっとアピールが求められていると感じている。また施設名称から利用者が連想するイメージと実際に提供するサービスのギャップが少し見えてきていると思う。今後に向けて、検討の糸口として、「追加が求められる施設サービス、道の駅の役割の明確化、回遊性」などを考慮しつつ、検討を進めていきたいと考えている。

○　資料５を改めて見ていただきながら、これまでの事務局説明や道の駅利用者への出口アンケート調査結果、関連事業者ヒアリング結果等に対するご意見、それらを踏まえた気づきなどを頂戴したい。

事務局から説明のあった資料５と基に、これまでの資料説明及び質疑・意見結果も踏まえ、意見交換を行った。

（委員　）今後、事務局へのお願いとして、最近インバウンドが非常に多い中で、道の駅の賑わい創出に向けて「インバウンド」という切り口も一定は入れていただきたい。すでに府中や天橋立文殊、伊根の方には、かなりのインバウンドのお客さんが押し寄せている。一方、宮津市街地を見ると、宿泊客には確かにインバウンドのお客様はいるが十二分に多くの方に来ていただいていないように思う。今後の道の駅の機能を拡充する上で、特にインバウンドについてしっかりと検討いただき、事業者に対するヒアリングにおいても方向性に対する意見を聞いていただきたい。

（委員　）先ほど委員がおっしゃられたようにインバウンドが非常に増えており、また旧正月が来るということで、昨日あたりから来日される方も多いが、とにかく飲食店が少ない。現存の飲食店でも人手がなく、需要はあるが供給ができないところも増えている。道の駅においても飲食の充実、特に最近増えている食べ歩きに重点的に対応できると良いと思う。また資料５の「検討の糸口」の軽飲食のところに「店先での浜焼き」とあるが、よその海岸線の観光地に行くとサザエや魚を焼く匂いがすごく漂ってくるが、府中、文殊も含めて、そのような香りが感じられないとよく言われる。そのようなこともすごく重要になってくると思う。
また、ペット連れのお客さんも多いが入店をほぼ断られると耳にする。特に冬は寒くて

外で食べていただくことはできない。犬連れの利用者が入れるスペースも作っていく必要があると思う。

（委員　）昨日雑誌を見ていたところ、去年一年間の外国人観光客は史上最高、去年の 40%増、コロナの前の 500 万人増という記載を目にした。これからもすごい勢いで増えていき、間違いなく宮津にももっともっと来られると思う。本当にインバウンド、外国人の方を意識した取り組みをしていく必要があると考える。
今日のアンケート調査等々、基本的には皆様共通の認識だと思うが「飲食店をもっと増やしてほしい、直売所面積をもう少し大きくして欲しい、駐車場スペースがもう少し必要なのではないか」といった課題をクリアしていく必要があると考える。ただしどれぐらいの大きさが必要なのかが今後の論点になってくると考える。
そのような中、先ほど事務局から説明があった庁舎移転の話は単に移転をするという話でもなく、また浜町エリアの活性化だけでもなく、市街地の地域づくりと連動していく話である。先ほど食べ歩きのお話もあったが、浜町エリア、道の駅エリアのみでなく、道の駅を訪れた方が道の駅でも飲食をされるけれども、道の駅で車を置いて市街地を散策したり、食べ歩きをしたりして、浜町の道の駅と連動して市街地も活性化をしていく。そのようなことが本来あるべき目標の姿ではないか。宮津駅前、本町、中町、新浜、浜町、さらには島崎エリアへ拡大していくような地域づくりが必要ということで、ぜひお願いしたいと思う。

（委員　）出口アンケートの調査結果で「もっとお魚、海鮮があると思った、海産物を生かしたメニュー」という意見があるが、実際にまごころ市さんの方でどういった部門、商品が売れ筋であるか、教えていただきたい。

（委員　）加工品のお土産が特に多い。海産物も干物などがメインである。観光客の方は新鮮なお刺身などをイメージして来られていると思うが、実際置かれているのは干物や乾物である。野菜類も観光客の方は持って帰りにくい。コロナ禍の時も Goto トラベルのチケットのクーポンを全部そこで使おうとする関係で持って帰っても日もちがする、絶対使うお米などがよく購入されていた。

（委員　）野菜などは地元の方がメインで買っておられるのか。

（委員　）もちろん他府県から来られてお米などを買っていただいて、とても気に入っていただいて直接直売所とかに「送ってほしい」というお声もいただいているが、やはり地元の方が多い。

（委員　）先ほどおっしゃっておられた、ウォーターフロントエリアだけに限らず街中を周遊するようにということは確かにそうだと思っている。以前作成されたマップは街中観光マップが表、裏が飲食店になっており、国道からちょっと歩かれたらお魚屋さんや飲食店の情報が載っている。道の駅だけで利用者の全てのニーズに応えることは難しいと思われるため、「国道から少し歩けば飲食店やお魚屋さんがあります」といった情報発信も案内所とまごごろ市の方で案内できれば、お店・観光双方にとって良いと考える。

（委員　）市庁舎も移転してきてこのエリアが再開発されるということは、おそらく宮津にとって大きな開発になることは間違いないし、きちんと議論しておかないといけないことであると改めて感じさせられた。その上で３点述べたい。

１つ目は、この町全体の中でこのエリアをどうしていくのかということをよりボトムアップで決めていく必要があると思う。インバウンドの方も英語表記してあるからこの場所に来るのではなく、ここに何らかのコンセプトがあり、日本らしさ、宮津らしさを求めて来ていただくと思う。自然、海を求めて来訪する、あるいはペット連れ、子供連れ、外国人、障がいをお持ちの方も来訪いただける、そのような道の駅になればいいと思う。また広い意味ではこのエリアがそうした町になっていく方向があるといいと思う。コンセプトをどう考えていくかということが大きなポイントであると考える。

2 つ目は窓口をどう作っていくかということである。飲食店を増やしてほしいという意見があるが、既に一定数あると思う。最近このエリアでも飲食店を新しく始められた方もたくさんいらっしゃると思う。この情報がうまく伝わっていないことに対してもっと目立つ工夫、単に大きな看板を立てるということだけではなく、ソフト面での見える化を進めていく必要がある（例えば、グーグルマップに色々な言語で表記する／観光の検索に引っかかりやすいようにする／１時間だけのマイクロツーリズムのようなものも含めて、すぐ市街地に出られるようなメニューがある。など）と思う。

3 つ目は、ビジョンがたくさんあると思うが、これを結局誰がやるのかというところである。外部から来た人もチャレンジしやすいような環境など、ソフト面でのチャレンジの場、広い意味でいうと公共の場、そうしたチャレンジができるような仕組みづくりやソフト面での対策が必要かと思う。

ネガティブな意見もたくさん出てはいるもののよくよく中を見てみるとたくさんいいところもあると思う。それが十分伝わっていないというところも大きな課題であると思う。

（委員　）これまでのお話、また先ほどの DX、IT の活用というお話を踏まえると、綺麗な地図はあるけれども「今日営業しているか」や「しけが続いており、船が出ないのでお店が休み」等、少なくとも今営業しているのかしてないのか程度は IT の活用によって道の駅に情報として集約されると良い。道の駅と隣接する飲食店だけで朝から晩までずっと開店というのはなかなか厳しいと思うため、本当に質の良い店で皆様に知られていないお店がたくさんある中、人手が足りないことなどは IT やソフトの力で何か克服できないかと、今

皆様の意見を拝聴して感じた。

（委員　）関連事業者ヒアリング結果や出口アンケート調査結果を見ると、海の京都宮津というネーミングに対し、観光で来られる方はそれなりの期待をしてこられるのではないかと思う。来訪された際に「施設が狭いや席数も少ない」、「もっと海を意識した商品提供が必要ではないか」などが言われている中で、「海の京都宮津」のネーミングに対し「海は確かに見えるが、我々が期待していたのは海が見えて魚や何か美味しいもの食べて」といったイメージで来られるのではないかと思う。そのような期待感で見てみたら、ちょっと拍子抜けしたなあというイメージを持たれているのではないかと思う。
私が個人的にイメージしている道の駅というのは、例えば一つの施設で完結できる感じがある中で、やはり今の施設だけではいかにも小さい。もし一つのスペースが小さくて期待に添えるものでないとするならば、例えばミップル 5 階の食堂や金ぱ銀ぱのお寿司屋、周辺のお食事を提供できるお店なども含めて、この辺り全体が宮津京都の施設、協力した施設ですという意識で観光客に PR し、観光客の方に少しでも満足していただけるようなスペースを作るということが必要だと思う。今の道の駅なども、最初の説明にあったように ABCD エリアにして、いろんな事業者さんに民間資金を投入してほしいという思いでいろいろとやっておられるというのはわかるが、なかなか待っていてもそうそう来てくれる人もないだろうと思う。その中で、地元としてできることは何かを考えて、今言ったように一つの施設ではなくこの地域周辺全体で作っていく必要があるのではないか。
それで、調査をしておられる中でコンサルの立場で具体的なご提案・思い等があれば教えていただきたい。

（事務局）今回の調査でホテル事業者にヒアリングした際に「ホテルに来られている方の滞在時間（チェックイン午後 3 時、チェックアウト午前 11 時）と道の駅の営業時間（午前 10 時～午後 5 時）が重なっている時間がたった 3 時間しかない」ことに少し危機感を抱いた。
多くの宿泊利用者がチェックインした時には道の駅が閉まっているという状態で、「どこに道の駅があるんですか？」と聞かれている時点で、由々しき問題なのかなと感じている。ホテル事業者側が「なかなか道の駅を案内したくてもできない」とおっしゃっているところも課題と個人的に感じている。

（委員長）もしよければアドバイザーの先生にもぜひ何かご意見いただきたい。

（アドバイザー）今回の委員会資料、本日の委員会のやり取りも聞いた上で、現状の道の駅に対するニーズ、課題の多くが明確化されたと思う。その上で、私の方からは３点コメントをさせていただく。

まず１点が、今回、市役所機能をミップルに集約化するという検討も同時並行でされていることについてである。現状、その密度の中の商業施設やレストランなどが、どれぐらいその市役所の集約化に伴って狭くなるのかというところにも関係してくるが、ミップルと道の駅との棲み分けや機能分化というところが今後ポイントになってくるかと思う。また、ミップルの中に商業施設が残るのであれば、やはり道の駅の商業機能とどう連携していくのか、周辺の市街地との連携、特に宿泊された方が道の駅にいらっしゃって、それをどのように市街地の方に誘導していくのか、というところもポイントであると考える。IT を使ってうまく情報も共有していくというのも非常にいい手段だと思う。

２点目は駐車場についてである。ヒアリングやアンケートの中にもあったように、道路から入りにくい、駐車スペースが狭いなどは、PPP や PFI の案件で、特に商業施設を併設されるような事業者の方は必ずその駐車場の容量、台数を非常に気にされる。千葉の方も道の駅は複数あるが、駐車場に入るのに 30 分も１時間も並んでいたりする場面もあるため、動線と駐車場のスペースについては、やはりポイントになってくると思う。

３点目は最近のインフレ物価高騰や円安の影響、また人件費の高騰などによって生産コストが非常に上昇していることである。PPP、PFI といった官民連携の事業だけではなく、公共事業自体かなり入札不調が増えている。今回の対象施設は道の駅であるが、当然、立派な施設だから人が来るわけではなく、やはりそのコンテンツがあるから人が来ると認識している。豊富な観光資源、魅力的な飲食や物販が宮津には十分あると思うため、こういったものをうまく活用していけば、事業として非常にうまくいくのではないかと思う。

（委員長）昨今のコスト高の状況も踏まえると立派な施設の整備だけに重きを置くのではなく、やはりコンテンツも重要であるというお話を頂いた。また市役所移転の動きもあるため、ミップルの意味付けも含め、道の駅にどのように反映・検討するかということも合わせて考えるべきではないかという貴重なご示唆を頂いた。

個人的に２つ感じたことがある。道の駅から回遊という議論について、もちろん地域資源を生かすということではあるが、１つはストーリー性である。特にこの道の駅も市街も含めて回遊に回していけるのかということである。実はふるさと納税もハードだけではなく、ソフト、例えばホテルに泊まれたり、美味しいものを食べたり文化施設を見られたりなど、ふるさと納税であってもお肉とか野菜とかフルーツだけではなくて、そう

いうものをふるさと納税の対象とするようなことが今増えている。そういった動きにも繋げていけると良いと考える。
もう 1 つは、それから最近テレビで拝見する体験型についてである。例えば、山梨では着物の試着体験やおにぎり作りの体験、ワインの活用等、地域資源の活用が進められている。その他高校生のような若い世代が体験する事業もここ 2、3 年始まっているため、DX 等の活用も含めて、我が町我がふるさとにどのようにして観光客を呼び込み、住民の皆様も快適な生活を送れるのか、若い人たちの新しい目でぜひ意見いただくということも良いのではないかと、先のテレビや周りを見て感じている。
傍聴席の方、何かご感想やご意見があれば発言いただきたい。

（傍聴席）初めて傍聴させていただいて、「議論はされており、いろんな課題が見つかっているが決まらない。誰がやるのか分からない。してほしい意見を述べる、お願いするという意見が出るが、これだけの方が集まっていても何も決まらない。」というのが傍聴人としての一番の不安である。例えば、本日の検討委員会において道の駅の営業時間や定休日、ホテルとの関係のご指摘があった。ずっとその課題が出ているが、未だにおさかなキッチンは５時で閉まり、定休日がある。まごころ市も早く閉まる。観光シーズンのお正月時期にも観光客はいっぱい見えたが、残念ながら道の駅は三が日休みでおさかなキッチンも 2 日間休みであった。
そういうことからいくと、難しいことは置いておいて、課題やアンケート結果が出たことをすぐに実行されたら、少しでも改善策につながっていくし、それからその結果を見てまた将来の計画も変更したらいいと思う。
まずは会議をすることよりも、すでにある課題をいかにして解決していくか、今日から改善することが一番大切であると思う。本日聞いている中でその意見が出ないというのが一番不安である。本日は市の幹部もいっぱいいらっしゃいますので、今出たようなことで「私がこの点はやります」という手を挙げていただく方が一人でもいらっしゃれば、宮津の将来は明るいかなと聞いていた。ぜひともどなたかおさかなキッチンの改革を、手を挙げてやるという方が出ていただきたいと思う。

（委員長）あるべき状態と現状とのギャップをどのように埋めていくのか、さらにその弱みの部分をどう強みに転換するか、この辺りはもう少し深掘りしてご意見を反映して実行し、強みに変えていくということこそ重要ではないかという貴重なご意見を賜った。

本日の検討委員会では本エリアで活かすべき強みの再確認、利用者等が連想するイメージと現状のギャップ克服への強い意志、施設のテーマ等の検討の糸口、ハード・ソフトの両面でどのように更新・追加していくべきか、結果としてのエリア活性化における道の駅の役割の更なる明確化、エリア内の回遊性を改善すべきではないか等についてご意見を賜った。

では、本日の議題は以上である。最後に、「その他」という議題がある。事務局から説明いただきたい。

5. その他

（事務局）この委員会、令和 6 年 7 月の第 1 回から令和 7 年 1 月の今回第 2 回という中で、利用者の色々なニーズの声、関連事業者の声も聞く中で、検討にあたって幅を広げる段階を経たと捉えている。

今後についてであるが、先ほども傍聴者様の方からの指摘もあったが、次回以降の会議はまとめていく段階に入る見込みである。これまでの調査結果、そして本日の検討委員会で委員・傍聴者の皆様から頂いたご意見等を踏まえて、道の駅機能拡張に向け、パシフィックコンサルタンツ・京都総研コンサルティング共同企業体による専門的な調査を引き続き継続し、施設テーマ等の検討やサウンディング調査を実施するところである。

そして、道の駅として追加すべき機能や拡張の規模などの検討も含め、その調査結果を次回第 3 回の検討委員会でご報告させていただき、決めていくためのステップとしての会議として、委員の皆様にさらに意見をいただきたいと思っている。

日程については、調査状況等も踏まえ、3 月 12 日から 25 日の間で日程調整させていただき第 3 回検討委員会が開催できればと思っている。

6. 閉会